あいとぴあ
相原まちづくり協議会情報誌

2004年
3月1日
第16号

発　行　相原まちづくり協議会
責任者　今　村　忠　司
所在地　町田市相原町１２４１
電　話　042(774)8705

相原まちづくり協議会発足２０周年　特集（4面から）

相原町の人口が 減少し始めました

新しい相原駅舎の工事が２月でほぼ完了しました。駅ホームの屋根も新設され、工事のための覆いなどは撤去されました。

しかし、せっかく、きれいな駅舎ができあがったにもかかわらず、相原町の人口が、ついに減少してきました。町田市の人口調査によると、今年1月1日現在の人口は15,354人で、前年同月比では133人減少しています。昭和33年に相原町が発足して以降、減少したのは、初めてのことです。4～5面の「年表　戦後からのくらしと相原の動き」にありますように、昭和33年4,161人でしたが、高度経済成長とともに急増して、同50年に8,000 人台に、59年には１万人を突破し、平成６年には15,000 人台になり、その後、緩やかな増加を続けていました。

しかし、ついに減少に転じてしまいました。この原因は、都心回帰などから、流入人口が少なくなったことが考えられます。また、世帯数はほとんど変化がないことから、親の世代は、そのまま相原に残り、子どもたちが、他の地区に転出していることが想定されます。

いずれにしても、高齢化層が増加して、若い世代が減少する構図になっています。これは全国的な動向です。地方ほど、この現象が顕著と言われますが、東京都下のわが相原町でも、その姿が明確になってきました。

人口減少は、初めてだけに戸惑いもありますが、悲観的にならず、人口減少をどう受け止めたらよいか、まちづくりの中で、今後、みんなで考えていくテーマです。

平成15年度 市政懇談会開催

毎年、町田市長と各関連部課長の出席で相原地区連合町内会とまちづくり協議会で開催される、相原地区市政懇談会が1月27日に堺市民センターで行われました。

本年の質問内容は、以下の通りです。

1．町田街道拡幅と大戸踏み切りの立体化および相原駅周辺の整備について
2．境川河川沿いのサイクリングロードについて
3．高齢化社会における交通システムについて
4．相原に公共機関（国、都、市）を誘致する件について
5．相原に医療機関を誘致する件について
6．相原中央公園の建設、管理について
7．堺中学校の体育館・温水プールおよび子どもセンターの建設について
8．花の町相原の活性化推進について

の８つの提言・質問が提示され、それぞれ市長や担当者から回答がありました。本年度は市側の出席者の多くが一月初めの内部の異動のためか明確な回答が少ないのが目立ちました。詳細は連合町会が議事録を発行しますので、各町会長にお問い合わせください。

以下、まちづくりで担当した３.４.５の各提言・質問について、記しておきます。

２面に続く

3. のテーマについて

Q.　相原町内は全体的に坂が多く、日常の買い物や外出時高齢者が不便な点と、行動活性化のため、小型バス、コミニュテイバスの町内循環を低額での運行を市と地元で検討したいとの提言です。

A.　市側の回答は、現在のまちっこの利用も少なく、赤字であるが、玉川学園地区で実験運行するコミニュテイバスの結果で検討したい。と消極的な内容でした。

4. のテーマについて

Q.　市内公共機関は、町田駅周辺地域に集中しているので、国や都の出先機関を相原駅周辺に移設、または誘致して商業活性化に役立てたらとの提言に

A. 市の回答は、国や都は、出先機関の統合や縮小を検討しているが、機会があれば検討したい！というものでした。

5. のテーマについて

Q.　相原に総合医療機関はできないものの、総合病院に紹介してもらうための診療所も数少なく、神奈川県側や他市町村の病院、診療所に依存するこの町の現状を市に新設、斡旋して貰いたいとの提言です。

A.　市の回答は、市民病院の拡充により利用増大と、小山の多摩境駅周辺に病院とリハビリ施設を作るよう市は都へ誘致しているが相原で開業したい人があれば応援するとの回答でした。

この三つの提言にも目新しい回答も積極的な回答も無かったことは残念なことです。

その他、一般参加者からの要望では下水道工事の見通し、バス停付近の道路幅を広げて欲しい、自転車が通れる道路幅を確保して欲しい、などの質問がありました。

「駅前周辺のまちづくり」で講演会

第６回まちづくり講演会が10月26日に堺市民センターで行われました。

ＪＲ相原の新駅舎が6月1日に完成し、駅前西口広場と町田街道からの進入道路が５年計画で行われようとしています。駅前を中心に相原のまちづくりを、どうしたらよいか、みんなで考えるために開かれました。

講演会は東京都立大学の饗庭（あいば）伸助手が「駅周辺のまちづくりと参加型のまちづくり」をテーマに行いました。

饗庭助手の講演内容は以下の通りです。

「まちづくり」の言葉は、1952年に一橋大学の先生が国立市の市民運動を雑誌に取り上げたのが最初です。「まちづくり」という言葉が全国的に広がったのは60代後半からです。市民運動、学生運動とマッチして、闘いのシンボルとなりました。しかし、70年代から行政が使うようになり、「まちづくり」は運動的な意味から、行政がすることに市民の意見を聞いて、市民と一緒にやっていこうということになってきました。

最近はＮＰＯのような、市民の中にまちづくりする組織が生まれ、その組織と役所が一緒になってまちづくりをするところが、多くなっています。つまり、初めは市民運動型だったが、最近は共働型になっています。まちづくりの方法は各地で多様な取り組みになっています。

相原でのまちづくりは、議会が機能していない部分を議会に代わるものとしての役割を果たし、機能していると思います。個別的に市に行って要請する人が多くなると、それを受ける市も大変な事務量になります。陳情に代わるものとして、まちづくり協議会が受け皿になれば、行政も窓口が一元化しやすいのではないでしょうか。

私が指導した山形県鶴岡市の事例を紹介します。

人口は10万人前後で推移しています。10万人くらいの規模が、最もまちづくりがやりやすいです。90年代で農業がダメになり、量販店の大型店舗の進出で既存業者は被害を受けました。私は、まちを歩くことから始めました。私は鶴岡市に「ワークショプ」を提案し、そこで出たものを「情報帳」としてまとめることにしました。話し合って情報を共有していきます。まちのアイデンティティがわかってきます。

相原は地域のまちづくりも同じです。まず相原町のマップを作って下さい。町を歩いて、情報を地図の上に書いてみて下さい。さらに100分の1くらいの模型を作ってみます。　積み木のように、町並みを作ってみます。そこに、みんなで意見を出し合って、よりよい「まち」を考えて下さい。

この後、出席者全員をパネリストとして「駅周辺のまちづくり」のシンポジウムを開きました。

この中で次のような意見がありました。

○　西口駅前広場や道路などの説明会では、全

３面に続く

体的に好意的に、協力的に受け止めています。計画が早く実現できると良いと思っています。

○　町田街道と横浜線の踏切の立体交差を早急に実現させて欲しい。

○　相原地区は市に対する働きかけが弱すぎるのではないか。もっと住民運動を積極的にすべきです。市長との話し合いは年１回だけでなく、多く回数を重ねるべきです。

○　一般的に駅が良くなると商店街が繁盛するが、相原住民は商店に期待していないのではないか。

○　市に要望すると相原から提案がないと言われます。まちづくりのあり方を作って、提案書を市に出していくべきです。

○　大戸に引越してきて15年くらいになりますが、相原駅に出るのには道が狭いので、八王子みなみ野駅に行くことが多いです。道幅を広げて欲しい。

○　高齢化してきたので、遠くに行かず、近くで買い物できる商店街が必要です。

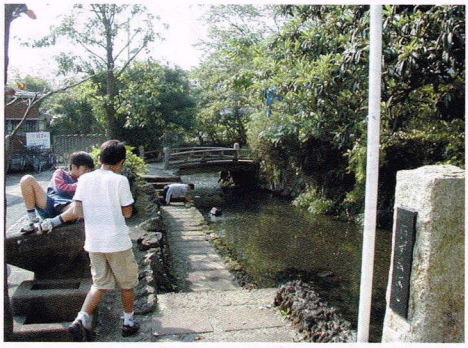
○　地域のビジョンをきちんと作ってはどうか。その場合、役所の人にも来てもらい、一緒に考えることが必要です。

○　商店街を新たに形成するというのでなく、花で飾ったきれいな「まち」、電線を地下に埋めるなどして、きれいな「まち」にしてはどうか。相原町は特徴ある店を中心に活性化をはかつてはどうか。などでした。

静岡県三島市のまちづくりを視察

相原まちづくり協議会は11月8日に静岡県三島市のまちづくりを視察しました。一行は今村理事長ら17人が参加しました。相原町を貸切バスで午前７時に出発して10時からNPO「グランドワーク三島」の案内で、街中せせらぎ事業、市民公園などを視察しました。帰りに柿田川の湧き水を視察して午後６時ごろ相原町に帰ってきました。

三島市は、富士山に降った雪が地下から湧き出る「水の都」として知られています。しかし、

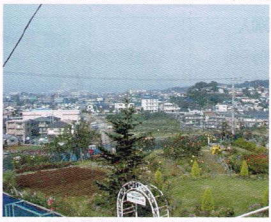


上流にできた工場やゴルフ場が地下水を汲み上げてしまい、湧水が枯れ始めてしまいました。危機感をいだいた市民グループが、水の都の再生に向け立ち上がったのが、「NPOグランドワーク三島」です。同組織は市民団体だけでなく、青年会議所、土地改良区、商店会など20団体によって構成されています。グランドワークとは、みずからの手で身近な環境を改善することです。ともすれば、対立関係にある行政、企業、住民の三者が協力しあうものです。

源兵衛川はゴミが捨てられ、汚い川のシンボルになっていました。ふるさとの原風景を取り戻そうと市民がスコップを持って立ち上がりました。今は子どもたちが、水遊びし、ホタルが乱舞するまでに水辺環境は回復しました。親水公園として観光資源になっています。市民により、定期的に川の清掃作業を実施しています。

橋を通じて人々の出会いの場所となるように、景観ガイド版や富士の湧き水でしか生息しない水中花の「三島梅花藻」などを栽培・管理しています。散策道も整備しました。

また、空き地をグランドワークが市民と何回も話し合いによって公園にしたところを視察しました。管理は地元の住民が行いますが、植物園のように多くの植物が栽培され、きれいに管理されていました。



これらの市民運動を受け、三島市は「街中せせらぎ事業」を実施しています。これは「せせらぎと緑あふれる庭園のような街をみんなでつくろう」をスローガンに、街の顔の景観づくり、歩きたくなる道の景観づくり、親しみある川づくり、歩きたくなる「案内」づくり、小さな博物館づくりなどについて、それぞれ市は助成しています。

【相原まちづくり協議会は、11町会・自治会のみなさんが会員です。各町会・自治会から推薦された理事・監査で運営しています。】

相原まちづくり協議会２０周年記念

協議会のあゆみ

「相原のよりよいまちづくり」をめざし、相原の人たちが自主的にひとつの組織をつくり、まちづくり運動に取り組みました。昭和55年7月に発足した、**“明日の相原を考える会”**で今の“相原まちづくり協議会”の前進です。

この会では、各町会、自治会から205名の代議員と14名の相談役が選出され、あまりにも多人数の体制で、思うように活動ができなかったようです。

そうしたことを踏まえ、この会は発展的に解散され、20年前の昭和58年9月、現在の「相原まちづくり協議会」が発足されました。

住民運動の難しさを感じながら、手弁当を覚悟の上で、発起人10名、会員11名の新組織で、事実上再出発の形でスタートし、現在に至っています。

相原まちづくり協議会　発足２０周年を迎えて

５代目　現理事長　今村忠司

過ぎ去った20年は早く感じられるものです。

まずは、４面から５面の年表をご覧下さい。協議会の理事が発足20周年を記念し、総力を挙げて作ったものです。

戦後からのくらしと相原の動きを表にしたものです。ご自分の生活に照らし合わせ、いつ何ができ、いつ何が起こったか、いろいろのものが変化しています。ただ動きが遅いので日常生活の中では変化の様が感じ取れないだけです。

子どもの成長や家族構成の変化、それにまつわる生活環境の変化、生活の仕方の変化等いろいろのものがこの年表から見えてくるはずです。

人口が増えれば新しい施設が必要になってきます。新しい生活の道具ができると生活が便利になる反面犯罪も伴なってきます。

また、あの建物はいつできたのか、あの事件はいつ起こったのか、あれはいつのことだったかなど、この表を見れば一目瞭然です。この表の一番下の欄は皆様のご家族のための欄です。有効にお使い下さい。

さて、協議会は20年前に発足したわけですが初代の理事長は渡辺一雄氏、２代目は河内一氏３代目は青木幸雄氏、４代目は木下眞氏でした。

発足当初、理事の任期は５年でした。２期目に入り４年が経過したところで５年の任期は長すぎると言うことで、３年任期に規約が改正されました。他の団体に比べ任期が長いのは、毎年役員が改選されると問題の流れが解らなくなってしまう恐れが合ってのことです。

“相原は何も変わっていない”とは良く聞かれる言葉ですが年表をご覧いただけば変化の様子がお分かり頂けると思います。これもひとえに協議会の先輩諸氏の願いがひとつづつ実現された結果であると信じてやみません。

設立当初は、具体的な市の計画はありませんでした。その後、いろいろ問題提起されたり、市に対する要望が具体化され、昨年、相原駅が完成いたしました。今後の計画としては、介護支援センター、子どもセンター、堺中体育館・プール建て替え、下水道敷設、相原中央公園（工事継続中）、駅前広場と進入道路などが計画されています。また、平成20年は、横浜線開通100年目の年の当たります。

これからの相原をすばらしい「まち」にしていくには何が必要かを考えていくことと、皆様の力が必要です。皆様方のご協力のほどお願いいたしまして20周年を記念する言葉と致します。

２０周年をお祝いします

相原地区連合町内会長　本徳亘良

20年の長きに亘り協議会のご努力に敬意を表し心よりお祝いを申し上げます。

まちづくりは時間の掛かるものと思っていますが、今、相原は変化しようとしています。貴会広報誌（あいとぴあ）で紹介されているように多方面にわたる施設等が建設又は予定されており、5年後の相原はすばらしい“まちづくり”が実現するものと考えられます。

私は“ひとづくり”も、“仲間づくり”も“まちづくり”と考えています。

「一声掛けて“まちづくり”」をモットーに地域の安全、安心もまちづくりと考え、地域の人が「大きな声で明るい挨拶」すれば、相原地区は挨拶が良くできる町だ！と評価され、犯罪も少なくなると確信しています。

また、相原は花いっぱいの町だ！と言われるように花の町推進委員もがんばって居ります。

地域の人が仲間を作り活動するなかで、人づくりもできれば明るいまちづくりができると思います。そして、この町に他地区より一人でも多くの人が相原に来ていただけるよう、今後考えていくことが大事！と町民全員が考える事と思います。

この地の緑を売りものに多くの都民が来るよう協議会や連合会も考えていきたいものです。

今後、私自身もご協力致すことをお約束し、「一声掛けて“まちづくり”」に全力を尽くすことを申し上げ、協議会が益々発展されることをご記念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

相原のまちづくりを思う

２代目　理事長　河内　一

当時を思い起こせば、相原地区は、町田市が誕生して10数年経っても、まちづくり対策が後回しにされ、「町田のチベット」と言われた時期がありました。

しかし、昭和40年頃より住宅団地の建設が進み、法政大学の進出や武蔵岡団地計画等で人口増加が予想されました。公共施設の充実と消防力の強化が求められ、堺地区連合町会と消防団が主体となり、「堺支所、消防出張所建設促進委員会」を結成し、運動を起こしました。

当初堺支所は、老人施設を別に設ける案が出ましたが、市案通り「老人憩いの間」を併設した形の「堺市民センター」として建設することで合意しました。

消防主張所は、数カ所の候補地から昭和52年、用地が確定されたので、東京都関係機関に対し、地域の実情を繰り返し訴え、八千余名の署名を以って、陳情や誓願を行い、ようやく、昭和60年2月、職員26名で町田消防署西出張所として坂下に開所されました。

一方、相原のまちづくりについては、昭和53年、町田市より「相原まちづくり構想」の素案が示されました。それに対応するため二百余名の代議員で構成した「明日の相原を考える会」を組織しましたが、その機能を果たせず昭和58年に解散しました。

同年、有志21名がこれを引き継ぎ、会員制で「相原まちづくり協議会」を結成し、相原連合町会の賛同を得て、現在の組織が作られました。

当初、相原駅周辺の開発と、町田街道の都市計画道路設定に取り組み、町田市との協議を重ね、地権者と話し合い、尾根バイパスの計画等を模索しましたが、一向に、進展が見られず、当時の役員や関係者の努力が偲ばれます。

現在、相原駅の橋上化が完成し、その他のまちづくりも大分進んで参りましたが、まだ多くの重要課題が残されており、今後の活動が期待されます。

憂い

３代目　理事長　青木幸雄

そうですか。20年もの歳月が流れすぎて行ったのですね。早かったのか永かったのか？

思えばこの相原まちづくり協議会の前進である「明日の相原を考える会」が発足したのは昭和57年7月のこと。当時では画期的な考えの基で地域の人々が会を立ち上げ、住民主導により、よいまちを目指し219名もの有志の方々が、会費を持ちより真剣な面もちで熱気に満ちた会合を繰り広げ、活動がなされておりました。当時、住民主導のまちづくりの活動には行政からの風当たりが相当なものであったようですが、めげず！相原の歴史の中を垣間見るよう、この地の気質であろうか他に頼らず「我ここにあり」延いては、「唯我独尊」といったところか、自立したコミュニティを築き自由な意志で参加する目的集団が、地域社会の問題を解決するに建設的な発想で物事に当たっておりました。私も会員の一人として参加し初めて「まちづくり」というものに接し興味を注がれたものでした。当時の様相が昨日のように思い浮かんできます。

今年、町田市が新たなまちづくりのあり方を基本構想の中で、この4月に打ち出されますが、まさに此処相原では、24年も前に先輩達が実施していた「住民主導のまちづくり」そのものです。驚きと共に敬意を表したく思うばかりである。

また、このような心意気が、この精神が相原に息づいていることを願いまちづくりへの思いを馳せております。　ところで、この度の寄稿の依頼は「理事長当時の事」をとの事でしたが、敢えてもの申したくお許し願いたい。さて、このところの協議会の活動は、行政追随型で主体性が見られず本来の「まちづくり協議会」の姿で無いよう思えてならない。元来、まちづくりは、その地域の「暮らしづくり」であるように、この地域をよく知らなければなりません。そのための調査、研究がなされなければならないと感じております。ここで暮らす人たちがどの様な暮らしをしているか、何を必要として期待しているのか、また、どう導きが必要なのか、大事な事柄が失われています。中央公園、子どもセンター、堺中体育館などのことはそれぞれに推進組織があり役目担っています故、協議会が介入しなくてもよいと思う。もっと日々の暮らしそのものに視点を変えて、地域に潜む問題を掘り起こし提起解決していく事が本来の役目だと思うのだが。憂いてならない一人です。

相原駅の出現に思う

４代目　理事長　木下　眞

昨年の6月1日より相原駅は、新駅舎で開業いたしました。長い間待たれた新駅舎です。

明治以来、長い間東西の通行ができず、大変な不便を感じてきました。戦後になっても相変わらず不便さは変わりなく、西口方面は時間を限って改札する状態が続きました。その中柵を越えて侵入するものが後を絶たず鉄条網でふさいでも一夜で元通りになってしまいました。

長い間の不便が解決される日がきました。

橋上駅の実現がいつでも電車に乗れる日がきました。新駅舎については、利用者のニーズに答えるべく、まちづくりの役員が朝早く駅前に立ち、アンケート調査を行い、要望事項を吸い上げ反映してきました。駅舎の形、エレベーター、エスカレーターの位置等について要望し、色彩についてもなるべく回りに馴染むよう配慮してほしい旨、要望しました。駅の基本はできました。周辺の整備はこれからで駅前広場、それに取り付け道路、大戸踏切の立体化が急がれ、各方面の協力により相原のまちづくりを完成させたく思います。

相原子どもセンター 具体的 準備段階に！

相原に子どもセンターを！と、願ってきましたが、第二号館の鶴川地区が１月に着工となり、いよいよ次は相原の番となりました。

市政懇談会において、寺田市長も次は相原地区の番で、場所は中央公園そばに用意できそうとの発言があり、実現に向け歩み始めました。

同誘致委員会も、若手中心の運営準備委員会にバトンタッチされ、運営、広報、他の４部会に分かれ具体的に活動を開始しました。

中学生や高校生の協力や、若い父親母親の積極的な行動で、相原らしいセンター作りが期待されます。運営準備委員会には相原町あげて多くの方々の参加を期待してます。

又、子ども委員会の設立も間近で、小学校高学年から高校生までの委員会参加を待ち望んでいます。平成１８年末完成を目標にこの春から具体的な提案と実行が期待されています。

相原の3つのNPOは　元気に活動中

武蔵岡団地手前に、市によってデイサービスセンターが建設されます。NPOやまゆり会は、この運営を担当します。新年度は建物の建設と平行して具体的な運営準備に入りました。開設まで月に一度、お年寄りを囲んでの食事会も実習を兼ね、だんだん熱が入ってきました。

相原中央公園をベースに、草刈や、公園の緑整備に熱心な NPO相原さとやまの会もメンバーが増え、草刈機等もそろい、陽春3月から活動できるようスタンバイしています。

相原では一番古いNPO夢連は、昨年に引き続き「多摩の横山ふっとパスウオーク」を4月25日に開催予定です。また、エコミュウジアムの実践を中心に新規事業も視野に活動するそうです。

相原ＪＡＯ会（竹炭）

16回にわたり竹炭焼きを実施

ＪＡＯ会の竹炭焼きは、ピークを迎えています。

発足当初から竹炭焼きに挑戦してきました。炭焼きの場所は大地沢でしたが、昨年から中央公園内の一角で行っています。

今回も、地元の竹林所有者の協力のもとに、竹切りを昨年11月28日、12月10日、18日に行いました。竹炭焼きは、３日間にわたりますが、初日が午前４時から午後４時頃まで12時間かかります。２日目は窯で寝かせ、3日目に午前8時半から10時半まで２時間かけて取り出し、清掃します。窯に熱のあるうちに、次の竹を入れるため、翌日から炭焼きを始めます。

ＪＡＯ会のメンバーは現在、35人です。一人一人に焼き方を体験し、覚えてもらうため、A、B、C、Dの４班に分けています。

3月は、3日～5日がＣ班、6日～8日がＤ班、9日～11日がＡ班、12日～15日がＢ班、16日～18日がＣ班、19日～22日がＤ班の6回の予定です。

竹炭は１回で約15キロ生産されます。出来上がった竹炭と竹酢液は各町会の盆踊り、大地沢祭り、堺市民センター祭りなどで販売します。４月は、窯を活用して、生焼きにして置物作りに挑戦することにしています。

新入会員　募集中　入会希望者は、毎月第３木曜日午後１時半から相原まちづくり相談所（「サイゼリヤ」隣）で会合を開いていますのでご参加下さい。本徳(782)6968、まちづくり相談所(774)8705

あいとぴあ の足跡

まちづくり協議会の機関誌「あいとぴあ」もこの号で第16号になりました。

第１号の発行は、8年前の1996年4月でした。

「まちに熱き想いこのように」というタイトルで、「まち」はその時代だけで創るものではなく、長い歴史と伝統が、それぞれの市民生活に浸透しています。市民一人ひとりは、地域に暮らす「あなた」であって、その皆様がこの「まち」相原を形成しております。「まち」だって個性を持たなければいけないと思います。「誇りと豊かさを創るまち」をめざして、人に優しい個性の光る「まちづくり」を進めたいと思います。……と理事一同で宣言し発行されました。

「あいとぴあ」とは、相原の「あい」であり、愛情の「あい」でもあります。そして、理想郷の意であるユートピアのトピアを合わせた言葉です。

当初は、馴れないワープロで縦書きの文章を糊で切り張りする手作業の４ページ印刷でした。

第２号は、翌年11月に発行されました。幸雄、忠司、賢一、郁也の一晩徹夜で作成した、夢多き、中身濃き紙面でした。

1998年3月からパソコン編集になり、また違った意味で苦労してきました。写真も何とか掲載され、あとあとも試行錯誤の連続でした。

しかしながら、８年間で第16号の実績が示すように定時発行が難しいのも現実です。

町田市や市内の団体から発行するたびに配布要求されることも多くなりました。中身の正確さと継続の保持が永遠のテーマです。皆様のご指導ご鞭撻が「あいとぴあ」を元気にさせます。さらに、相原も元気にさせます。

編集後記　「右手にスコップ、左手に缶ビール」を合い言葉に考えながら行動するNPOグランドワークの活動を静岡県三島市で視察してきました。行政依存型の活動でなく、住民自らがスコップを持って汗を流して地域を改善しています。

しかし、よく考えると相原町は行政から取り残され、早くから市民が立ち上がって行動してきたのではないでしょうか。

さらに、まちづくりの意識をお互いに共有して、多くの住民が参加できる活動を通して、住みたくなるようなまち並み、歩きたくなるような歩道を、美しい環境を、みんなで作っていきましょう。　（今　島　須）